

関西国際大学の学生による避難行動要支援者の 避難支援啓発パンフレット作成の取組



パンフレット作成協力
関西国際大学
教育福祉学科3年生 8人
(山本ゼミ)

- 1 大学生が取り組んだこと
- 2 啓発パンフレットについて
- 3 今後の活用について

重層的支援推進担当課

1 大学生の取組

(1) 避難行動要支援者の避難支援について学習(計7回)

- ・市の避難行動要支援者の状況や避難支援の取組
- ・防災につながる居場所づくりの地域団体との意見交換
- ・学習内容やインタビューによる気づきを共有するためのグループワークの実施



(2) 当事者へのインタビュー (3回)

(協力団体) 身体障害者連盟福祉協会、手をつなぐ育成会、就労支援作業所「ゆるる/がんじゅ」



身体障害者連盟福祉協会



手をつなぐ育成会



ゆるる/がんじゅ

(3) 学習を通しての気づき



- 日ごろからの声をかけやお互いを気にかける関係があれば、災害時にも気軽に声がかかりやすくなる。日ごろからの顔の見える関係づくりが大切！
- 当事者は、必ずしも地域の人とつながっていない現状がある。
- 当事者には見た目だけでは障害のあることがわからない方がいることや、支援内容をうまく伝えられない方がいる。
- 地域の人々が、ふだんから要支援者一人ひとりの支援の必要な状況を知ること、災害時にお互い安心でき、配慮もしやすい！

- 当事者は備えの大切さは理解しているものの、どうしたらいいか不安に感じているし、専門職も一人だけでは災害時の支援に不安を感じている。
- 当事者と地域の支援者が、災害時にできることを一緒に考えることができれば、お互い安心できる。一緒に考えるきっかけとして、個別避難計画が良い。
- パニックになるので、災害時に考えるのは難しい。スムーズに避難しようと思うと、事前に避難行動のタイミングや避難先、必要な持ち出し品を確認し、いろいろな支援者と共有することが大切。
- 災害時は気が動揺し会話が難しくなる方もいる。避難所での必要な配慮や、支援内容がみんなに共有されていると、支援される側・する側も助かる。

【気づきを共有するグループワークのまとめ】

	平常時		避難行動時		避難生活	
	ないとき	あるとき	ないとき	あるとき	ないとき	あるとき
当事者	災害時の対応がわからない、不安を感じる。	災害時の対応がわかる、安心できる。	避難行動時の対応がわからない、不安を感じる。	避難行動時の対応がわかる、安心できる。	避難生活の対応がわからない、不安を感じる。	避難生活の対応がわかる、安心できる。
要支援者	支援者の対応がわからない、不安を感じる。	支援者の対応がわかる、安心できる。	避難行動時の支援者の対応がわからない、不安を感じる。	避難行動時の支援者の対応がわかる、安心できる。	避難生活の支援者の対応がわからない、不安を感じる。	避難生活の支援者の対応がわかる、安心できる。
個別避難計画	個別避難計画がない、不安を感じる。	個別避難計画がある、安心できる。	避難行動時の個別避難計画がない、不安を感じる。	避難行動時の個別避難計画がある、安心できる。	避難生活の個別避難計画がない、不安を感じる。	避難生活の個別避難計画がある、安心できる。
支援者	支援者の対応がわからない、不安を感じる。	支援者の対応がわかる、安心できる。	避難行動時の支援者の対応がわからない、不安を感じる。	避難行動時の支援者の対応がわかる、安心できる。	避難生活の支援者の対応がわからない、不安を感じる。	避難生活の支援者の対応がわかる、安心できる。



2 啓発パンフレットについて

内容やイラストについては、学生の気づきを反映させて作成しました。

関西国際大学 × ひなゆめをまもろう地域社会

～避難行動要支援者の避難支援～

ささえあう地域社会を目指して

災害は、いつ起こるかわかりません。

いざという時に、みんなであつながり、ささえあうことができるよう、

避難行動要支援者の避難支援にご協力をお願いします。

避難行動要支援者名簿や個別避難計画の取組の詳しい内容については、下記担当までお気軽にお問い合わせください。地域の防災力の向上、災害時に支えあう地域の実現のためにご協力をよろしくお願いたします。

【お問い合わせ先】

尼崎市福祉局福祉部重層的支援推進担当

電話番号 06-6489-6013 ファックス番号 06-6489-6952

メールアドレス ama-sasaeai@city.nishinomiya.jp

○ この冊子は、高齢化が進む中で、誰もが災害時に助けを求め、助けを求むことができるよう、互いに支えあうことを基本とし、要支援者の避難支援の取組をきっかけとして、いざという時に支えあう地域社会を目指して作成しました。

○ 避難行動要支援者名簿には、地域の支えあいを基本とし、ご家族の安全を確認した上で対応いただくことが前提となります。災害発生時において支援がなくても、責任を負うものではありません。

○ また、要支援者の皆様にも、さまざまな状況が想定される災害において、必ず助けを求めることを保証する取組ではないことをご理解ください。

この冊子は、関西国際大学教育学部教育福祉学専攻の協力のもと、同大学の学生が当事者団体へのインタビュー等を通じて要支援者の避難支援について学び、その気づきをもとに作成しました。

3 今後の活用について



学生と担当者の思い

- 地域の支援者のみなさんが、地域での要支援者の避難支援をする際の一助になればうれしい。
- 要支援者支援の取組が広がり、少しでも地域で暮らす要支援者の不安の解消につなげたい。
- 将来、福祉の専門職として、地域と一緒に関わるときに、このパンフレット作成で学んだことをいかして要支援者の避難支援の大切さを伝えたい。

広報の方法（予定）

- 関西国際大学の学生の地域活動を通して周知啓発（地域のサロン活動等）
- 市HPへの掲載や生涯学習プラザ・南北保健福祉センターでの配架
- 市政出前講座等の市民向けの勉強会での活用
- 自主防災会、当事者団体、福祉専門職団体、民生児童委員の皆さまを通じた周知啓発